

※事務事業コード／ 0102020103

平成 25 年度 事務事業シート

P1

部署名	部 市民部	課 税務課	事業年度期限	● 無 ○ 有（平成 年度～平成 年度）
会 計	一般会計	款・項・目 020201税務総務費	新規／継続 （事業区分1）	継続 市民協働 行政主体 総合計画コード 5422
事業名	03税務事務総合調整事業			
目 的 （成果）	市税について市民の理解を深め、税に関する意識の高揚を図り、自主財源を確保する。			
内 容 （概要）	●税関係団体研修会の参加等による税情報の収集 ●税関係団体への負担金の納付等			

■事業費 (単位:円)

平成23年度 決算			平成24年度 決算			平成25年度 予算					
事業内容	●税制度の啓発、広報 ●税関係団体への負担金の納付等 ●税関係団体研修会等の参加		●税制度の啓発、広報 ●税関係団体への負担金の納付等 ●税関係団体研修会等の参加		●税制度の啓発、広報 ●税関係団体への負担金の納付等 ●税関係団体研修会等の参加		【特記事項】				
財源内訳	国庫支出金		国庫支出金		国庫支出金						
	県支出金		県支出金		県支出金						
	市債		市債		市債						
	その他		その他		その他	875,000					
	一般財源	896,600	一般財源	952,740	一般財源	117,000					
	計	896,600	計	952,740	計	992,000					
歳出内訳	節番	節名称	金額	節番	節名称	金額	節番	節名称	金額	うち臨時分	
	09	旅費	28,280	09	旅費	53,420	09	旅費	62,000		
	11	需用費	115,520	11	需用費	113,920	11	需用費	157,000		
	19	負担金、補助及び交付金	752,800	19	負担金、補助及び交付金	785,400	19	負担金、補助及び交付金	773,000		
	決算額計	896,600		決算額計	952,740		予算現額計	992,000	0		
(参考)	H23当初予算額	1,065,000		H24当初予算額	1,006,000		伸び率(%) 対・決	4.1	対・予	-1.4	-
人件費	職員人件費	2.6 人工	20,791,768	職員人件費	2.4 人工	19,367,633	職員人件費	2.3 人工		17,229,512	
総事業費	歳出+職員人件費		21,688,368	歳出+職員人件費		20,320,373	歳出+職員人件費			18,221,512	

■指標

P2

種類	指標名	単位	説明		平成23年度	平成24年度	平成25年度
活動指標	税関係団体研修会及び申告相談研修の参加人数	人	税務研修会・税制改正説明会等の参加	目標	70	70	70
				実績	69	88	
成果指標	租税教室の実施回数	回	租税教室の実施	目標	3	3	3
				実績	3	5	
成果指標	自書申告件数	件	申告書の自書作成の推進	目標	4000	4000	4,000
				実績	4000	4092	
成果指標				目標			
				実績			

■事務事業の点検

必要性の点検

☒	法定受託事務であるなど、市が実施する義務がある
☐	事業を休廃止した場合、市民生活(行政サービスの提供)に深刻な影響が発生する
☐	社会情勢の変化を踏まえても十分なニーズがある(ニーズを説明できる)
【必要性 Total判定】□	
☒	A:高い(義務)
☐	B:普通
☐	C:低い
<Total判定の根拠など、必要性に関する補足説明>	
・地方自治法、地方税法に基づく事務である。	

目標達成状況の点検

☒	活動に関する昨年度の目標は概ね達成できた
☒	成果に関する昨年度の目標は概ね達成できた
☐	「取り組み方針(改善方針)」など指標に表れない事項について昨年度の目標は達成できた
【目標達成状況 Total判定】	
☐	A:目標よりも大きな成果が得られた
☒	B:概ね目標の成果が得られた
☐	C:目標とする成果が得られなかった
<Total判定の根拠など、目的達成状況に関する補足説明>	
・税務署、県税事務所等との連携により新制度や改正内容等の税情報を発信している。	
・自書申告の一層の推進が必要である。	

実施内容・方法の点検

☐	社会情勢やニーズの変化等を踏まえると、サービス対象・水準を見直す必要がある
☐	当該事業の受益者が特定の個人や団体に偏っている
☒	民間事業者やNPOなどに任せられる業務がある
☐	コストを下げる工夫が考えられる
☐	成果を高める工夫が考えられる
【実施内容等 Total判定】□	
☐	A:見直す余地があり直ぐに実施
☒	B:見直す余地があるが時間が必要
☐	C:見直す余地がない
<Total判定の根拠など、実施内容・方法に関する補足説明>	
・国・県・市・各種団体等の協力を得た、税制度の広報活動の推進による税意識の一層の高揚が必要である。	

■課題と対応方策

課題	・納税者の税に関する意識や税申告に対する意識の高揚を図るための、税制度の広報活動
次年度における対応方策(改善方策)	・税に関する啓発等の広報活動
中長期的な視点での対応方策(改善方策)	・納税者からの問い合わせや申し出等に対する体制づくりの充実

■今後の方向性

一次評価【課長評価】	
評価者	大久保昌明 担当課名 税務課
事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 休廃止(年後を目処) ☐ 終了
事業費の方向性	☐ 増額 ☒ 現状維持 ☐ 減額
次年度の取組方針(改善方針)	・複雑化する税制度及び税制改正等について、市民に分かりやすい周知方法を念頭において対応する。

二次評価【部長評価】	
部長名	根本光男 担当部名 市民部
確認	☒ 確認
	・高齢化の進行など社会環境の変化に沿って、市民に分かりやすい周知方法で税の広報活動を推進する。

※事務事業コード／ 0102020202

平成 25 年度 事務事業シート

部署名	部 市民部	課 税務課	事業年度期限	●無 ○有（平成 年度～平成 年度）				
会 計	一般会計	款・項・目 020202賦課費	新規／継続 （事業区分1）	継続	市民協働	行政主体	総合計画コード	5422
事業名	02市税賦課事務事業							
目 的 （成果）	税負担の適正・公正化を図り、自主財源を確保する。							
内 容 （概要）	市税課税対象者の適正な把握に努めた納税通知書・台帳・統計調書の調製							

■事業費 (単位:円)

平成23年度 決算				平成24年度 決算				平成25年度 予算				
事業内容	●申告資料投入・検収●未申告相談●扶養否認調査●課税対象者の所得把握●固定資産評価・名寄帳電算処理●税制度の周知徹底 ●エルタックスの導入			●申告資料投入・検収●未申告相談●扶養否認調査●課税対象者の所得把握●固定資産評価・名寄帳電算処理●税制度の周知徹底 ●エルタックスの推進			●申告資料投入・検収●未申告相談●扶養否認調査●課税対象者の所得把握●固定資産評価・名寄帳電算処理●税制度の周知徹底 ●エルタックスの推進			【特記事項】		
財源内訳	国庫支出金			国庫支出金			国庫支出金					
	県支出金	62,933,165		県支出金	60,337,944		県支出金	62,000,000				
	市債			市債			市債					
	その他			その他			その他					
	一般財源	0		一般財源	0		一般財源	3,618,000				
	計	62,933,165		計	60,337,944		計	65,618,000				
歳出内訳	節番	節名称	金額	節番	節名称	金額	節番	節名称	金額	うち臨時分		
	07	賃金	1,354,970	07	賃金	1,329,130	07	賃金	1,481,000			
	11	需用費	795,136	11	需用費	693,437	11	需用費	770,000			
	12	役務費	4,103,719	12	役務費	3,984,072	12	役務費	4,112,000			
	13	委託料	27,030,852	13	委託料	27,931,752	13	委託料	27,905,000			
	14	使用料及び賃借料	183,960	14	使用料及び賃借料	183,960	14	使用料及び賃借料	167,000			
	19	負担金、補助及び交付金	524,267	19	負担金、補助及び交付金	537,043	19	負担金、補助及び交付金	683,000			
	22	補償補填及び賠償金	0	22	補償補填及び賠償金	0	22	補償補填及び賠償金	500,000			
	23	償還金利子及び割引料	28,940,261	23	償還金利子及び割引料	25,670,950	23	償還金利子及び割引料	30,000,000			
				27	公課費	7,600						
		決算額計		62,933,165		決算額計		60,337,944		予算現額計	65,618,000	0
(参考)	H23当初予算額		64,475,000	H24当初予算額		65,793,000	伸び率(%)	対・決	8.8	対・予	-0.3	-
人件費	職員人件費	6.3	人工	50,380,054	職員人件費	6.5	人工	52,454,006	職員人件費	6.0	人工	44,946,552
総事業費	歳出+職員人件費		113,313,219	歳出+職員人件費		112,791,950	歳出+職員人件費					110,564,552

■指標

P2

種類	指標名	単位	説明		平成23年度	平成24年度	平成25年度
活動指標	申告・未申告相談日数	日	申告相談及び未申告相談の実施	目標	30	29	30
				実績	32	29	
成果指標	税制度の周知回数	回	市民が税制度の理解を得るための広報	目標	10	10	10
				実績	14	15	
成果指標	税相談件数	件	税相談や課税内容の問い合わせ等の対応	目標	150	150	150
				実績	184	128	
				目標			
				実績			

■事務事業の点検

必要性の点検

☒	法定受託事務であるなど、市が実施する義務がある
☐	事業を休廃止した場合、市民生活(行政サービスの提供)に深刻な影響が発生する
☐	社会情勢の変化を踏まえても十分なニーズがある(ニーズを説明できる)
【必要性 Total判定】□	
☒	A:高い(義務)
☐	B:普通
☐	C:低い
<Total判定の根拠など、必要性に関する補足説明>	
・税務関係研修への参加等による職員の税知識の一層の向上が必要である。	

目標達成状況の点検

☒	活動に関する昨年度の目標は概ね達成できた
☒	成果に関する昨年度の目標は概ね達成できた
☐	「取り組み方針(改善方針)」など指標に表れない事項について昨年度の目標は達成できた
【目標達成状況 Total判定】	
☐	A:目標よりも大きな成果が得られた
☒	B:概ね目標の成果が得られた
☐	C:目標とする成果が得られなかった
<Total判定の根拠など、目的達成状況に関する補足説明>	
・税務関係研修への参加等により職員の税知識を高め、市民サービスの充実を図った。	

実施内容・方法の点検

☐	社会情勢やニーズの変化等を踏まえると、サービス対象・水準を見直す必要がある
☐	当該事業の受益者が特定の個人や団体に偏っている
☐	民間事業者やNPOなどに任せられる業務がある
☒	コストを下げる工夫が考えられる
☐	成果を高める工夫が考えられる
【実施内容等 Total判定】□	
☐	A:見直す余地があり直ぐに実施
☒	B:見直す余地があるが時間が必要
☐	C:見直す余地がない
<Total判定の根拠など、実施内容・方法に関する補足説明>	
・より効果的な電算業務の促進の検討が必要である。	
・電子申告システムの活用による、正確性及び迅速性の一層の向上が必要である。	

■課題と対応方策

課題	・正確で、公平な課税に資するための、適時の課税資料の取得や把握、入力処理、点検等の体制づくり
次年度における対応方策(改善方策)	・市民部各課や税務経験職員との協力体制の充実
中長期的な視点での対応方策(改善方策)	・賦課にあたっての、入力・異動処理に対応できる体制づくりの強化

■今後の方向性

一次評価【課長評価】	
評価者	大久保昌明 担当課名 税務課
事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 休廃止(年後を目処) ☐ 終了
事業費の方向性	☐ 増額 ☒ 現状維持 ☐ 減額
次年度の取組方針(改善方針)	・適正・公平な賦課の為の課税資料の収集とチェック体制の強化に努める

二次評価【部長評価】	
部長名	根本光男 担当部名 市民部
確認	☒ 確認
	市税各税の適正・公平な賦課を行うため、税知識の習得や内部チェック機能の強化に努める。

※事務事業コード／ 0102020203

平成 25 年度 事務事業シート

P1

部署名	部 市民部	課 税務課	事業年度期限	●無 ○有（平成 年度～平成 年度）
会 計	一般会計	款・項・目 020202賦課費	新規／継続（事業区分1）	継続 市民協働 行政主体 総合計画コード 5422
事業名	03固定資産適正評価事業			
目 的（成果）	固定資産評価基準に基づき、適正かつ公正な評価を実現し、市税を確保する。			
内 容（概要）	固定資産税の実務全般において、新しい情報を基に課税客体の把握に努め、公平で適正な価格体系の確立を図るために必要な業務を行う。			

■事業費

(単位:円)

	平成23年度 決算			平成24年度 決算			平成25年度 予算		
事業内容	●時点修正後の路線価算出・画地認定・画地計測、公開用路線図及び路線価表示台帳の作成●時点修正●公図加除修正			●時点修正後の路線価算出・画地認定・画地計測、公開用路線図及び路線価表示台帳の作成●時点修正●公図加除修正			●時点修正●地番図管理システムのデータ更新及び保守●画地データ修正●標準宅地不動産鑑定評価●平成27年度評価替土地評価資料整備		
財源内訳	国庫支出金			国庫支出金			国庫支出金		
	県支出金			県支出金			県支出金		
	市債			市債			市債		
	その他			その他			その他		
	一般財源	9,448,897		一般財源	5,299,140		一般財源	20,129,000	
	計	9,448,897		計	5,299,140		計	20,129,000	
歳出内訳	節番	節名称	金額	節番	節名称	金額	節番	節名称	金額
	13	委託料	9,448,897	13	委託料	5,299,140	13	委託料	20,129,000
	決算額計		9,448,897	決算額計		5,299,140	予算現額計		20,129,000
(参考)	H23当初予算額		9,450,000	H24当初予算額		11,561,000	伸び率(%) 対・決	279.9	対・予 74.1 +
人件費	職員人件費	3.1 人工	24,790,185	職員人件費	3.1 人工	25,016,526	職員人件費	2.7 人工	20,225,948
総事業費	歳出+職員人件費		34,239,082	歳出+職員人件費		30,315,666	歳出+職員人件費		40,354,948

【特記事項】

■指標

P2

種類	指標名	単位	説明		平成23年度	平成24年度	平成25年度
活動指標	時点修正鑑定評価ポイント数	地点	土地価格に関する下落状況を把握するための標準宅地の鑑定評価	目標	94	249	249
				実績	249	249	
成果指標	時点修正鑑定評価反映件数	件	不動産鑑定評価による土地の価格形成要因の的確な評価に基づく課税の反映	目標	94	249	249
				実績	249	249	

■事務事業の点検

必要性の点検

☒	法定受託事務であるなど、市が実施する義務がある
☐	事業を休廃止した場合、市民生活(行政サービスの提供)に深刻な影響が発生する
☐	社会情勢の変化を踏まえても十分なニーズがある(ニーズを説明できる)
【必要性 Total判定】□	
☒	A:高い(義務)
☐	B:普通
☐	C:低い
<Total判定の根拠など、必要性に関する補足説明>	
・公平な課税を進めるために課税客体の把握をするうえで必要不可欠である。	

目標達成状況の点検

☒	活動に関する昨年度の目標は概ね達成できた
☒	成果に関する昨年度の目標は概ね達成できた
☐	「取り組み方針(改善方針)」など指標に表れない事項について昨年度の目標は達成できた
【目標達成状況 Total判定】	
☐	A:目標よりも大きな成果が得られた
☒	B:概ね目標の成果が得られた
☐	C:目標とする成果が得られなかった
<Total判定の根拠など、目的達成状況に関する補足説明>	
・時点修正鑑定評価により公平かつ適正な課税を行った。	

実施内容・方法の点検

☐	社会情勢やニーズの変化等を踏まえると、サービス対象・水準を見直す必要がある
☐	当該事業の受益者が特定の個人や団体に偏っている
☐	民間事業者やNPOなどに任せられる業務がある
☒	コストを下げる工夫が考えられる
☐	成果を高める工夫が考えられる
【実施内容等 Total判定】□	
☐	A:見直す余地があり直ぐに実施
☒	B:見直す余地があるが時間が必要
☐	C:見直す余地がない
<Total判定の根拠など、実施内容・方法に関する補足説明>	
・地番図管理システムを有効活用し、効率的な業務運用を図る。	

■課題と対応方策

課題	・土地評価の基礎資料整備の更新による公平で適正な価格体系の確立 ・課税基礎資料のデータ化による業務の効率化
次年度における対応方策(改善方策)	・平成27年度評価替えに向けての現況の把握調査の推進
中長期的な視点での対応方策(改善方策)	・課税基礎資料のデータ化の推進

■今後の方向性

一次評価【課長評価】	
評価者	大久保昌明 担当課名 税務課
事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 休廃止(年後を目処) ☐ 終了
事業費の方向性	☒ 増額 ☐ 現状維持 ☐ 減額
次年度の取組方針(改善方針)	・H27年度の評価替えに向けて、基礎資料の整備に努める

二次評価【部長評価】	
部長名	根本光男 担当部名 市民部
確認	☒ 確認
	・H27年度の評価替えに向け、現地の調査を踏まえた公正な課税に努める。